



酒殿修理の最終段階。棟瓦の取り付け工事中

春日大社 第六十次
式年造替だより

平成二十五年三月二日 第二号
 発行 式年造替事務局
 住所 奈良市春日野町一六〇
 電話 〇七四二(二二二) 七七七八

〇二十年毎に御社殿の

御修理を執り行う原点

神さまに捧げる感謝のこころ

常日頃、大神様からいただいておりますお恵みに感謝すること。そのご恩に対して、誠心誠意こころを込めて行っているのがお祭りです。春日大社では一年三百六十五日、二千二百回以上のお祭りを奉仕申しあげておりますが、そうした祭典の中で、二十年に一度執り行われる至高最上の祭典奉仕が「式年造替」です。普段のご奉仕では出来ない御社殿の御修理と、それに伴う諸儀式を取り行い、真心を尽くしてのご奉仕を行って神様にお喜びいただく。春日の大神様に感謝し奉る。この御社殿の御修繕を、二十年を限って造替させていただき感謝申しあげます。それで大神様はお喜びくださる。その御神慮を有難く拝させていただきます、そしてただただ感謝申しあげます。これが神々さまへの祈り・御造替の原点です。

この御造替事業に、一人でも多くの方にご参加をいただき、六十回目となる今次の御造替を滞りなく成し遂げ、ご神徳の一層の発揚と、かけがえのない文化伝統を後世に守り伝えてゆきます。



造替 Q & A

Q 来る平成二十七年二十八日に春日大社で式年造替が行われると聞いたのですが、これはいったいどんな行事なのですか。

A あまり聞き慣れない言葉ですが、「式年」と申しますのは「定まった一定の年限」「造替」と申しますのは「社殿を造り替える」という言葉です。伊勢神宮では新築する宮殿の位置が隣の空き地（古殿地）にお遷りになるので特に「遷宮」と云いますが、春日大社では神様を西隣の移殿に一時仮にお遷り頂き（仮殿遷座祭）、その間に本殿の工事をし、終われば元の本殿にお遷り頂き（本殿遷座祭）ます。つまり本殿の位置は変えずに建て替え、或いは修理するので「造替」と云います。伊勢も春日も二十年毎に社殿を新しくする、という意味では全く変わりありません。



一之鳥居竣工 立柱上棟祭斎行（平成20年4月16日）

いよいよ始動 式年造替奉賛会結成

去る十一月十八日、春日大社において、第六十次式年造替奉賛活動の礎となる造替奉賛会が設立されました。

春日大社の式年造替は伊勢の神宮と同様、二十一年ごとに執り行われ、古くは歴代の將軍や国の力で推進されてきましたが、終戦後は政教分離により一神社の負担となりました。このため昭和三十年の第五十七次、昭和五十年の第五十八次、平成七年の第五十九次と困難を極めつつも、幸いに心ある方々のご奉賛を頂き、これを無事執行行つて参りました。そして二十年の歳月は早く、この平成二十八年には六十回目となる記念すべき造替を迎えます。

当社では早くより検討を重ね、去る平成二十三年の四月には造替事務局が発足、奉賛会の設立を期するた



総会にて挨拶される山口奉賛会会長（左は近衛総裁、花山院宮司右は野村副会長）

め、責任役員会、総代会に諮り、事業内容、役員等が協議、奉賛会設立に向け種々準備を行つてきました。

その後役員委嘱も順次行われ、ようよう設立総会の日時も決定、十一月十八日に奉賛会設立総会が開催されました。

午後一時四十五分、本殿前において、近衛総裁（旧五撰家・日本赤十字社社長）・山口奉賛会会長（当社

責任役員・近畿日本鉄道株式会社社長）・西口理事長（当社責任役員・奈良商工会議所会頭）以下役員参列のもと、造替奉賛会設立奉告祭が、厳粛に執行、引き続き景雲殿にて設立総会が開催、議事については全議案とも満場の拍手を以て承認されました。

これから本格的な奉賛活動に入りますが、近衛総裁・山口会長を先陣として、ご就任を頂きました役員各位のご協力によりまして、先人より受け継いで参りました文化伝統を、変わらぬ姿で後世に引き継いで参りたいと思ひます。今次ご造替が予定通り遂行されることを願う次第です。（造替事務局）



景雲殿にて開催された設立総会

◎ご造替へのメッセージ

春日大社式年造替奉賛会会長
近畿日本鉄道株式会社社長

山口昌紀

私は奈良で生まれ育ち、春日さんは子供の頃からの遊び場でありました。当時、春日若宮おん祭の日は、小学校が休みになりました。おん祭は、子供にとって最も楽しみな行事でありました。そのような事もあり、私は、春日さんには特別の思いを持って接して参りました。

この度、六十回目となる式年造替の奉賛会会長にご推挙いただきました。これも何かの縁と思ひ、一生懸命務めて参りたいと思ひます。

現在、我国は、戦後最大の混乱期にあります。政治、経済を始めあらゆる面が停滞しており、閉塞感が世の中を覆っております。

戦後の経済一辺倒の考え方から、ご先祖様に対する敬意や自然に対する畏敬の念といった日本人が本来大切にしてきた精神に我々が立ち返ることが、日本再生の原点であり、この精神は神社に受け継がれてきたと思ひます。

この式年造替は、日本人が大切にしてきた精神を、奈良朝から千二百余年に亘り、現在に繋いでまいりました。

この大変意義のある式年造替を立派にやり切るべく、力を尽くして参ります。

何卒、皆様のお力添えを賜りますよう、宜しくお願いいたします。

◎酒殿工事にあわせて見学会実施

第六十次式年
造替第二期事業
となる重要文化
財・酒殿の造替
工事に併せ、松
皮葺き替え見学
会を開催、多く
の参詣者に現場
を見学いただき
盛況裡に終了し
ました。



重文「酒殿」松皮葺き替え見学会の様子（平成24年10月）

酒殿は、春日
祭に供すべき社
醸酒を造るため
の社舎。社伝で
は平安時代の貞観元年（八五九）創建。現在の建物は寛永九年（一六三二）の建立と考えられています。
通常ならば工事中は覆屋で囲われ、一般には未公開の現場ですが、奈良県文化財保存事務所との協議の上、見学用通路を設け、松皮葺き替えが本格化する十月二十九日より十一月九日までの十二日間を公開、神職・職員の案内の許、のべ千名を超える方々にご見学いただきました。

また限定講座として去る十二月二日の午前中、酒殿造替工事特別講座が開催され、奈良県文化財保存課・文化財保存事務所田中主査に県内の文化財修理の実情、また春日の歴史的背景からその独特な建築工法を中心に、専門的な内容を噛み砕いて分かり易くお話をいただき、参加者に文化財修理に対する理解を深めていただきました。

◎樽井氏工房にて高坏制作

春日大塗師職預である樽井禧醇氏は、前回の五十九次でも高坏・四脚机・中丸盆等の祭器具類製を担当され、その時に常に主眼とされてきたのが古式調度の考証復元であり、今使用されている物を模造するのではなく、古式の意匠に戻せるところは戻すよう心掛けてこられたため、より春日に相応しい祭器具が調製されました。

今回も前回同様、先ずは五十五台の高坏を調製。総布張り本堅地蠟色塗りという三十数工程ともなる手間のかかる作業を経て、無事当社に納められました。このすばらしい技術を伝承するよう、今後はご子息の広幸氏と共に精進され、今後、他の祭器具類の調製に取り掛かり、正遷座祭に間に合うよう精進を重ねてゆかれます。



樽井氏高坏制作工房風景

【造替まめ知識】

獅子狛犬（しし・こまいぬ）

神社の入口や本殿の両脇、あるいは本殿の正面左右などに一対で向き合う形で置かれている霊獣を一般に「狛犬」と云いますが、正式には「獅子・狛犬」と呼びます。正面向かって右側に置かれるのが「獅子」。中近東でライオンの像を守護獣として置いたのが起源と云われ、毛は直毛で口を開き阿

◎御神前獅子狛犬一対完成

生駒市在住の春日有職檜物師職預・矢野公祥氏工房にて調製が進められている本社・若宮の獅子狛犬五対十体のうち、御本社第一殿に安置される一対が完成、宮司・権宮司検分の上めでたく神社に納められました。御神前の調度であるため、清浄を期して、前回の造替で撤下された江戸時代・文久年間の二之鳥居古財を用い、古式に従って調製。最後に岩絵の具で彩色され、御造替に合わせて奉安するに相応しい、実に鮮やかな見事な出来映えとなりました。今後引き続き平成二十八年の正遷宮に間に合うよう各御殿の獅子狛犬の調製が行われます。



神社で検分中の獅子狛犬（左は矢野公祥氏）

（あ）形となっています。向かって左側に置かれるのが「狛犬」。朝鮮半島から伝わった霊犬が起源とされ、毛はカールしており口を閉じて呷（うん）形となり頭に角（つの）があるのが特徴。古く平安時代に御所に置かれていた記録もあり、古い時代から日本に伝えられ定着したと考えられています。

幸せの御縁をむすぶ

「松皮一束神さまへ」百東達成間近!

日本の伝統文化、生活習慣の源泉であり結晶である神社諸社殿継承のため、心ある方々にご協力をお願いしておりますが、その一つとして、松皮の寄進があります。

当社には全国各地より多くの方々のご参拝になります。ある方は観光やご祈祷に。講座や研修に参加等々、それぞれの思いをもってお出でになります。そしてご参拝の折り、御社頭で「松皮一束神さまへ」の案内をご覧になり、思い立ってご寄進をされ、神さまとの御神縁を結ばれる方がお出でになります。

今回ご紹介を申し上げます方は、永らく当社との御神縁をお結びいただいております、奈良県北葛城郡在任の千秋郁代様、また大阪府住吉区在任の伊藤浩二・三千代ご夫妻です。

千秋様は十年来の崇敬者で参拝毎に松皮をご寄進いただき、その数は既に九十束を超え、百束の大大台も間近になります。当社の月次祭であります「旬祭」への参列、また春日山錬成会へ欠かさず参加出来ることを喜び感謝されております。

伊藤浩二・三千代ご夫妻は十五年来のご崇敬を頂き、二十一日の旬祭にはお揃いでご参拝になり、五十束を超えて松皮をご奉納頂いております。その功德の賜物かお仕事も順調で娘さんが昨年めでたく当社にてご結婚され、幸せな人生を歩まれております。

各氏におかれましては、今後も変わらぬ大神様の御加護を頂かれ、益々ご健勝にてご活躍をされますことを祈念申し上げます。

(※御造替奉賛につきまして、いろいろな形で、多くの方々にご協力を頂いておりますが、今回は特にご参拝により直接松皮をご寄進いただきました回数により顕彰させていただきます)



旬祭にお出での千秋様(右)と伊藤様ご夫妻(左)

二十五年年度修理予定建造物(三棟)

幣殿(へいでん)(重要文化財)

貞観元年(八五九)創建

社殿の天井が小組格天井と化粧屋根裏に分かれ、幣殿と舞殿が一体となっているのが分かる。永徳二年の罹災で焼失したのち、幾度かの造替を経て現在の社殿は江戸時代慶安年度(一六五二)のもので、今は参拝所として使われている。本来、幣殿は春日祭の祭場であり、舞殿は宮中より御差遣の御神楽を奉奏する建物である。

移殿(うつしどの)(重要文化財)

貞観元年(八五九)創建

古くは「内侍殿」と呼ばれ、春日祭での内侍参候の社殿であった。中世以降、内侍の参候が廃止され、後に本殿の造替や修理に際しての移殿(仮殿)として使用された為この名で呼ばれる。現在の建物は慶安年度(一六五二)のご造替のもの。遷宮にあたっては必ず丹塗り替え、屋根葺替え、壁塗り等の修理が施され、仮殿の設えが行われる。

捻廊(ねじろう)(重要文化財)

治承三年(一一七九)創建

春日祭に奉仕する斎女や内侍が昇殿するための登り廊で、永徳二年の罹災で焼失したのち、幾度かの造替を経て、現在の建築は寛永年度のご造替(一六三三)のもので、江戸時代に飛騨の名工左甚五郎が、現在のように斜めに捻れたものに改造したと伝えられている。



幣殿



移殿



捻廊

式年造替勧進

さだまさしコンサート本年もご奉仕

神仏に対して深い崇敬の念をお持ちのさださんの格別なご配慮ご協力により、毎年この奈良の地で「式年造替勧進コンサート」を開催頂いておりますが、第三回目となる今年は五月二十四日、奈良県文化会館にて開催することになりました。毎回千名を超える聴衆を前に、演奏の合間、式年造替についてお話を頂き、式年造替について広くお伝え頂いております。

この有り難いご奉仕は御造替の完了する平成二十八年まで頂く予定です。



造替事務局より

これから本格的な奉賛活動に入りますが、今、世上は大変厳しい状況にあります。今次御造替では、第一期事業、第二期事業として国宝御本殿四棟、重要文化財建造物十六棟の計二十棟の文化財建造物の修理をはじめ、境内整備事業、調度・祭典費等、事業内容は多岐にわたります。最低二十億円の費用を見込んでおり、大変な困難が予想されます。然しながら、どのような時代においても御造替を支え、行ってきた先人たちの努力に思いを致し、春日大社の社殿、そして境内三十万坪の原生林に息づく珠玉の文化伝統を変わらぬ姿で後世へ、子孫へと引き継いでゆきたいと存じます。どうぞ大勢のご理解とご協力をお願い申し上げます。